

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2017年8月号(第32号)



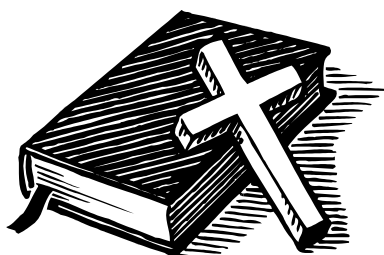
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

平和をつくる者は幸いです。

その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

【マタイの福音書 5章9節】

8月15日、私たちは72回目の敗戦の日を迎えます。残念なことです。地上には今なお戦争が絶えません。また、戦争に至らずとも国家間の対立、民族や宗教対立が存在します。また、それほど大きなことでなくとも、夫婦関係、兄弟関係、職場や学校の人間関係など、平和が保てずにいます。多くの人は争いたいとは思わないでしょうし、出来れば平和に過ごしたいはずですが、それが出来ない悲しい現実があります。そのような世にあって、今月の聖書のことばを考えることは、平和の糸口になるのではないのでしょうか。

聖書には「平和をつくる者は幸いです」とあります。英語の聖書では「平和をつくる者」というところが“peacemakers”と訳さ

れています。「トラブルメーカー」ではなく「ピースメーカー」となることが出来たら幸いです。聖書が語る「平和」とは、事を荒立てず、時には談合のようなことをして波風を立てずにいることではありません。ある人は「神の正義が実現し、その結果として繁栄し、社会や家庭に争いがなく調和していること」が本物の平和だと語ります。では、そのような平和を誰がつけることが出来るのでしょうか？

まず私たちが求めるべきは、神との平和です。聖書には、人が神と敵対関係にあることが分かります。敵対関係にある時、必要なのは和解です。ですから聖書には「神の和解を受け入れなさい。」とあります。神と和解するための使者として来てくださっ

たのがイエス・キリストです。そもそも私たちが神と敵対関係にあるのは、私たちが神に対して罪を犯し、反抗し続けているからです。その罪を全て十字架上で背負って死んでくださったのがイエス・キリストであり、このイエス・キリストを信じることによるのみ、神との平和が実現します。そして、この神との平和を実現した者が、平和をつくることが出来ます。また、この箇所から分かることは、平和は「すでにあるもの」ではなく「つくるもの」だということです。前述の通り残念ながら地上には争いが絶えません。その大きな要因は「自己中心」でしょう。自分が一番に、自分が誰よりも上に、自分が良い思いをするように、という思いに心が支配される時、私たちは人と対立することになります。ですから、自己中心から解放されなければ平和をつくることは困難です。更に具体的に、人のうわさ話、告げ口、人をあえて傷つけるような言葉を発しない、ということも大切です。

～集会案内～

○日曜日：聖日礼拝 11:00～12:30

○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00

教会学校 10:00～10:40（子どもから大人まで）

19:30～21:00

○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（子育てなどを行っている方のための集い。）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

私たちは大抵言葉によって失敗し、人との間に争いが生じます。もし争いが生じたときにはへりくだって素直に謝りたいものです。そこで意地を張る時、争いが長期化し、いつの間にか和解が出来ない状態になってしまいます。ですから、低くなって和解の行動を起こす時に、私たちは平和をつくる者となります。今月の聖書のことばの最後には「その人たちは神の子どもと呼ばれるから」とありますが、この争いが絶えない世にあって、自らへりくだって謝ることができ、人との間に平和を保とうとする人は、「神の子だ」となることでしょう。それが出来るのは、神との間に平和があり、神の前にへりくだっている人です。ぜひ神との平和を求めて下さい。

◆コラム

8月15日で敗戦から72年が経ちます。今が「戦後」なのか「戦前」なのか分からないような時代になっていますが、この8月に「平和をつくる者は幸いです」という聖書のことばがあたったことに不思議さを覚えます。平和はつくるものであることを心に留める時、私たちが何もせずにいるのではなく、積極的に動く必要があることを覚えます。大きなことはできませんが、まず身近な人たちとの平和を保ちたいものです。